

トルクメン通信 第7号

2017年1月27日作成

少し遅くなってしまいましたが、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。今年もトルクメニスタンで年越しをしました。トルクメニスタンでの年越しは、なんとというか不思議な感じです。日本のような「区切り感」がないからでしょうか。日本では、大みそかや新年といたら、紅白歌合戦やレコード大賞があったり、年越しそばやおせち料理、餅などを食べたり、何より年末年始は多くの会社や学校が休みだったり、「年末年始」を感じさせるものが多く、「新しい年がやってきた！」と実感できるのですが、トルクメニスタンでは新年の休みは基本的に1月1日だけ（今年は1月1日が日曜日だったので、1月2日は振替休日になりました）で、その前後は仕事をしていたので、「新年」という感じはせずあっけなく終わってしまった、という印象です。ただ、トルクメニスタンにもトルクメニスタンならではの年末年始の過ごし方があることも事実です。ということで、今回のトルクメン通信では、トルクメニスタンの年末年始の様子をお伝えしようと思います。

トルクメニスタンの年末年始

トルクメニスタンの年末年始といたら「クリスマスツリー」です。12月に入ると、街中でクリスマスツリーが「建設」されます。「建設」と書くと大げさに聞こえるかもしれませんが、本当に巨大なクリスマスツリーがあちこちに建てられます。僕の職場の近くでも、クレーン車が行ったり来たりするのを目にし「工事でも始まるのかな？」と思っていたのですが、そのクレーン車はなんとクリスマスツリーを建てるためのクレーンで、数日後高さ15メートルくらいのクリスマスツリーが出来上がっていました。日本でもこんなに大きなクリスマスツリーを見たことがなかったので、とてもびっくりしました。



ただ、「トルクメニスタンにクリスマスツリー」という光景は僕にとって少し意外でした。「トルクメニスタンってイスラム教徒が多いのになんでクリスマスツリーを飾るんだろう？」と感じたからです。トルクメニスタンはイスラム教の国です。サウジアラビアなどのように厳格な規律があったり、敬虔な信者が多かったりといったわけではないのですが（飲酒、喫煙可能。豚肉も手に入れることができます。また、ラマダンも半分くらいの人しかしません）、日常生活の節々でイスラム教の考え方が根付いているなあと感じることが多く、敬虔な信者が多くないといってもイスラムの教えを大切にしているので、余計に意外に感じたのかもしれません。なので学生にクリスマスツリーについて質問してみたところ、トルクメニスタンが旧ソ連の一部だった時から続いている習慣ということだったので、納得しました。確かに、トルクメニスタンにはロシア系の住民が多いですし、他のイスラム教国家でも、最近ではクリスマスツリーを飾っているところもあるようです。そういえば日本にもクリスマスツリーたくさんありますよね（僕自身、クリスマスとは縁がない生活を送ってきたので、気にしたことがなかったのですが…）。

年末年始の準備は12月に入ってから始まります。12月になると、先のクリスマスツリーの飾りつけ

と共に、年末年始を祝うための商品が販売されます。中には、外にテントを設置し、そのテントで販売をするお店もあります。こちらでは年末にお世話になった人にお菓子をプレゼントする習慣があるようなので、お菓子の詰め合わせが店頭によく並びます。ちなみにアザディ大学で教えていた時、各学年の学生からお菓子をもらいうれしかったのですが、一方で僕は甘いものが苦手なので「この大量のお菓子どうしようかな・・・」と困り果ててしまった記憶があります。また、アヤズババ（サンタクロースのような格好をしたおじいさんです）とその孫（女の子？女性？とりあえず、性別は女です）が、トルクメニスタン各地を回り、年末年始を祝う様子がテレビで毎日映されるのも、トルクメニスタンならではの光景だなと感じました。年の暮れになるにつれて年末年始を祝うイベントが多くなり、学生たちはそのイベントに参加し旗を振ったりダンスをしたりしなければならないので大変だと思うのですが…。巨大なクリスマスツリーの周辺には孫とカメラマンを連れたアヤズババが出没し、家族や子供と一緒に写真を撮る様子も見られたりします。サンタクロースと同じように、アヤズババは子どもたちにプレゼントを贈るのですが、現地の先生によると、子どもたちはアヤズババの前で詩を暗唱しないとプレゼントがもらえないので、子どもたちは一生懸命詩を暗唱するのだそうです。すごいトルクメニスタン……。

新年になると、花火をあげたり、爆竹を鳴らしたり、提灯のようなもの（台湾で見たことがあるのですが、提灯のようなものに願い事を書き、ろうそくの火でそれを空に飛ばすのがありますよね？あんな感じですが）を飛ばしたり、歌ったり踊ったりと大盛り上がりです。普段、夜はあまり人も出歩かず静かなのですが、12月31日から1月1日にかけては新年を祝う人たちが街中はにぎやかでした。ちなみにクリスマスツリーは1月10日ごろまで飾られます（「クリスマス過ぎたのにまだクリスマスツリー飾ってるの？」と僕なんかは感じてしまいましたが、他の国ではそれが一般的なようです）。



前ページ写真：職場近くのクリスマスツリー

左写真：トルクメニスタンの巨大ショッピングモール「バルカラル」にあるクリスマスツリー

中央写真：室内観覧車「アレム」の近くにあるクリスマスツリー 右写真：アヤズババと孫とカメラマン

日本語教育の近況

9月からアザディ大学以外の教育機関で日本語教育が開始された、ということはこのトルクメン通信でもお知らせしましたが、9月から今までいくつかの学校を見学することができたので、その様子を含め、現在の日本語教育の様子をお伝えしたいと思います。

初等教育ではアシガバット市内にある 140 番学校で 1 年生（6 歳）から日本語教育が始まりました。クラスは 4 クラスあり、全部で 150 人くらいの生徒が日本語を勉強しています。中等教育では、140 番学校を含めアシカバット市内 4 つの学校、そして 5 つの州を合わせて 8 つの学校の計 12 の学校で 5 年生（10 歳）から日本語教育が始まっており、800 名以上の生徒が日本語を学んでいます。教科書は、「にほんご 1」「にほんご 5」という、アザディ大学の先生を中心に作成した教科書を使用しています。これらの学校のうち、アシガバット市内にある 140 番学校と 89 番学校に行くことができました。どちらも新しい学校で、設備は整っており、パソコンやプロジェクターなどの機材なども充実していました。140 番学校は初等教育段階から日本語が学べる唯一の学校ということもあり、日本の国旗や地図、大統領の言葉が日本語に訳されたパネル（ちなみにこのパネルの言葉、トルクメン人の先生と一緒に僕が訳しました）、日本の学校の写真など、日本に関連する掲示物がたくさんありました。89 番学校は、日本語の他にドイツ語やフランス語なども学べる外国語教育に特化した学校のように、様々な言語で書かれた生徒たちが作ったポスターなどがかざられていました。また初回の訪問の際には、生徒たちの歓迎を受け、各言語による詩の朗読や「世界に一つだけの花」の発表をしてもらいました。どちらの学校も、生徒たちははじめに日本語の授業を受けており、積極的に発言する様子も見られ、授業の前後で「こんにちは」「ありがとうございます」「さようなら」「わたしのなまえは**です。」と学習した日本語で話しかけたりしてくれました。



140 番学校



89 番学校

また、1 月 3 日から 11 日まで、全国の中等教育機関の先生を集め教員研修を行いました。先生方に日本語の授業の様子を伺ったところ、多くの生徒が日本語学習を好意的に受け入れているということで安心しました。何より、先生方が楽しんで日本語を教えているというのが僕にとっては非常にうれしかったです。今後も先生方や生徒たちが楽しんで日本語を教えたり学んだりできるようなお手伝いをしていきたいと思います。ちなみにですが、トルクメニスタンにも日本の学校の「日直」に似た役割があり、日直はその日の日付や曜日を授業の最初に言ったり、出欠確認などをしたりするそうです。係や掃除の時間などもあるそうで、日本の学校と似ている部分があって驚きでした。一方、今回研修の中で先生方には模擬授業をしていただいたのですが、「大統領の言葉を教えてください」という導入があったり、先生方から「教育についてのことわざがありますか？（大統領がよく教育に関する標語やスローガンを発表するので、そのようなものなのだと思います）」「日本語の詩を教えてください（トルクメニスタンでは詩の

発表会があったり、各種イベントで詩が披露されたりなど、詩の朗読が盛んな国です)」などという要望があったりと、トルクメニスタンらしさを感じることもありました。今後もアシガバットをはじめ、各地域の学校を訪問する予定なので、その様子をお伝えできればと思います。

今号では、トルクメニスタンの年末年始、そして初等中等教育機関を中心とした日本語教育の現況についてお伝えしました。トルクメニスタンにきてからそろそろ1年半になるのですが、毎日いろんなことが起こるので、話題が尽きません(笑)。こちらでの生活を含め、これからも様々なトルクメニスタンの「いま」をお伝えできればと思います。Sag boluň!

国際交流基金派遣日本語指導助手(トルクメニスタン) 上原龍彦
(ご質問・ご感想などは azadyuehara★gmail.com へ。★を@に変えてください)